

**令和5年度 教職課程
自己点検評価報告書**

令和6年5月

**福島学院大学 福祉学部こども学科
福島学院大学短期大学部 保育学科**

福島学院大学 教職課程認定学部・学科

福祉学部こども学科 入学定員 40人 収容定員 160人
短期大学部 保育学科 入学定員 100人 収容定員 200人

教職免許状の種別

福祉学部こども学科 幼稚園教諭免許一種
短期大学部 保育学科 幼稚園教諭免許二種

全体評価

福島学院大学には、教職課程を設置している福祉学部こども学科、短期大学部 保育学科の2学部2学科があり、令和6年5月1日現在、こども学科は157名、保育学科は、138名の学生が学んでいる。

両学科とも、教職課程の他、保育士養成課程を併設し、幼稚園教諭養成を主たる目的とする学科であることから（教職課程 認定基準2（5））、入学者は予め免許状・資格取得を目指し、学生のほとんどが幼稚園教諭免許状と保育士資格を取得して卒業する。

「子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）」施行後、幼保連携型認定こども園における「保育教諭」称号の認知とその重要度が増してきており、称号を称するための両免許資格取得は卒業要件に関わらず必須となっている。

教職課程における高度な専門的知識・技術の修得に合わせ、保育士養成課程における学修は、特に教育実習と保育実習に代表される養成課程の学修課題など、学生にとって大きな負荷となっているが、きめ細かな指導ができる体制を整えている。両学科所属全教員で支援を行い、高い免許状・資格取得率を成し遂げている。

また、キャリア支援においても、大学の所在地である福島県福島市を中心に、郡山市、会津若松市、いわき市、白河市など、南東北（宮城県、山形県）にいたる各市町村の教職・保育職への高い就職率を維持し続けていることは、子育て支援による地域貢献を含め高く評価することができると自負している。

福島学院大学

福島学院大学短期大学部

学 長 桜 田 葉 子

目 次

I. 教職課程の現況及び特色	-----	1
II. 基準領域ごとの教職課程自己点検評価	-----	3
基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	-----	3
基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	-----	8
基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	-----	12
III. 総合評価	-----	17
IV. 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	-----	19
V. 現況基礎データ一覧	-----	20

I. 教職課程の現況及び特色

1. 現況

(1) 大学名・学部名・学科名

福島学院大学 福祉学部 こども学科

福島学院大学短期大学部 保育学科

(2) 所在地

福島県福島市宮代乳児池1番地1

(3) 学生数及び教員数(令和6年5月1日現在)

学生数

① 福島学院大学 福祉学部 こども学科 157名(収容定員160人)

② 福島学院大学 短期大学部 保育学科 138名(収容定員200人)

教員数

① 福島学院大学 福祉学部 こども学科 15名

② 福島学院大学 短期大学部 保育学科 13名

2. 特色

本学は昭和41(1966)年4月に開学。教育基本法、及び学校教育法に基づき、学校法人福島学院創立者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に沿って、真心(Sincerity)思いやり(Hospitality)を涵養し、社会に有用な人材を育成することを目的としている。

福祉学部 こども学科

こども学科は、教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う専門職を目指し、乳幼児期を中心とした保育および幼児教育に関する教育研究を行い、将来的に保育教諭、幼稚園教諭ならびに保育士として指導的役割を担うことのできる人材を育成することを明示している。

学修の特色は以下のように設定している。

(1) 保育・教育に加え、児童福祉・社会福祉も考える

発達障害や虐待問題など、複雑で多様化する子育てを取り巻く問題に積極的に取り組めるよう、保育や教育だけではなく、福祉や心理学的側面からも「こども」への理解を深める。

(2) 保育界のリーダーとして活躍できる高い専門性を身につける

保育・福祉・教育の理念と専門知識及び専門技術を学ぶとともに、ゼミナールにおいて子どもと関連付けたテーマで研究を進め、各分野の課題抽出と論理的思考の展開から、より高い専門性を身につける。

(3) 「幼稚園教諭一種免許状」と「保育士資格」を生かして子どもと保護者を支援する

卒業と同時に幼稚園教諭一種免許状と保育士資格、社会福祉主事任用資格の取得が可能である。将来は保育園・幼保連携型認定こども園・乳児院・児童養護施設などの児童福祉施設等での子どもと保護者の支援、幼稚園での幼児教育を実践し、管理的立場から保育界を先導できる人材への成長を目指す。

http://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/

短期大学部 保育学科

保育学科は開学当初から設置されている学科であり、58 年間にわたって保育者の養成を行ってきた。保育学科の教育目的、及び人材育成の目的は「多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を育成」することを教育目標としている。また、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格両方の取得を奨励し、将来の保育者として、生涯にわたって学び続けながら地域・社会に積極的、かつ実践的に貢献できる保育者の養成を目指してしている。免許状・資格取得そのものを卒業要件とはしていないが、学修の特色は、教育目標に沿って以下のように設定している。

(1) 幼稚園、保育所、認定こども園に関わらず、地域社会、家庭、社会的養護など様々な教育・

保育ニーズに対応し、実践者として活躍できる保育者となる理論と実践を身につける。

(2) 学内・学外実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題の把握や子どもの生活行動を的確に把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を修得する。

http://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/

基準領域Ⅰ 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目Ⅰ-Ⅰ 教職課程教育に対する目的・目標の共有

[現状説明]

福祉学部 こども学科

本学の教育の使命・目的は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、福島学院大学学則の第1条（本学の目的）第1項に、高い人間性を養成しそのことによって地域社会に実践的に貢献することとして明示している。また教育目的は、学則の第6条の第3項（教育目的及び人材育成の目的）1、2 において示されている。そして、保育者養成課程のこども学科では、学則における教育目的に基づいて三つのポリシーが策定されており、学科の目指す教育・保育者養成について、本学ウェブサイトおよび冊子印刷物「こども学科の教育」によって、教職員、学生へ周知されている。

また、こども学科教員に対しては学科FD研修会において、ディプロマ・ポリシーと各教育科目との有機的な関連づけを意図した活動を行っており、教員間での共有だけでなく教育内容の改善へつなげている。

一方、学生に対しては、オリエンテーションや、成績発表時に行われる「履修カルテ」及び「ふり返しシート」の記入指導の際に、繰り返し周知を行っている。

短期大学部 保育学科

本学の教育の使命・目的は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、福島学院大学短期大学部学則（以下「学則」とする。）の第1条（本学の設置目的）第1項に、広く知識を授けるとともに、専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、職業及び実生活に必要な人材を育成すると明示している。また教育目標は、学則の第5条の2（教育目的及び人材育成の目的）において、具体的に明示している。

保育学科の三つのポリシーは、大学の三つのポリシーを踏まえた上で設定している。これらの三つのポリシーは、本学ウェブサイト、「保育学科の教育」（学生便覧）等で広く周知しており、「大学案内」記載のQRコードからのアクセスも可能としている。学内外に公表することで、教職課程への教育に関する教職員の共通理解と、目的・目標の共有を図っている。

また、保育者の養成を目指す教師像は、「保育学科の教育」（学生便覧）にも示すとともに、学生には年度初めのオリエンテーションや学期末ごとの履修指導の時間帯を活用して周知している。

専門教育科目の担当教員は、当該科目の教職課程における位置づけを意識し、授業計画(シラバス)の授業概要、授業の到達目標等に教職課程の「免許法施行規則に定める科目区分又は事項等」との関連を明示している。さらに、各授業科目を受講することにより、ディプロマ・ポリシー1～5のどの項目に該当するのか、授業の到達目標と受講して得られる力をディプロマ・ポリシーと関連付けて記載している。そして、授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)にもディプロマ・ポリシーとの関連性が示されている。授業計画(シラバス)は、本学ウェブサイト等で周知しており、将来の保育者として、生涯にわたって学び続けながら地域・社会に積極的、かつ実践的に貢献できる人材育成を目指し、学科専任教職員、事務局教務課職員が中心となって、教職課程について指導・支援を行っている。

〔長所・特色〕

本学は、大学学則、及び短期大学部学則の教育の理念に「感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生を受け入れ、支援する」(両学則第2条第1項)と明示しているように、学生が高い人間性を獲得し成長するための教育を個性・特色としている。そのために、学生の知的好奇心を活性化させる講義・演習、社会とつながる実習や社会連携事業を実施するとともに、教員・学生相互のコミュニケーションを重視した少人数教育を導入している。本学の個性としての少人数教育と、特色である職業人の養成及び社会連携・社会実践教育については本学ウェブサイトで公表している。

福祉学部 こども学科

保育者養成学科である当学科では、地域の教育・保育機関と連携した活動として、本学附属認定こども園や小学校での読み聞かせの活動、子ども対象のイベントなどのボランティア活動を奨励し、学生への教育効果向上と地域貢献をねらいとした活動を積極的に実施している。

また、歴史ある短期大学部保育学科を中心とし、多くの本学卒業生が現職の保育者として活躍しており、地域における保育者養成への信頼は厚く、就職だけでなく、実習についても各保育施設と連携協力して学生を育成する体制が整っている。

短期大学部 保育学科

保育学科では、地域の教育・保育機関と連携した活動として、教職科目等においても、本学附属認定こども園との連携授業(園行事を実践的に体験する授業)や読み聞かせの活動を積極的に推進し、実施している。

また、保育学科では、教育目標を具現化するために、「保育学科カリキュラムツリー(授業科目

のナンバリングを含む)」を作成し、ディプロマ・ポリシーと授業科目を関連付け、セメスター（学年、及び前・後期）で学びの順序や段階を示しており、学生と教職員で共有されている。また、教職課程「履修カルテ」による教職関連科目の履修状況、自己評価シートにより、学生は授業科目ごとの振り返りが可能であり、担当教員は効果的な学生の教職指導に活用することを可能としている。

[取り組み上の課題]

福祉学部 こども学科

ディプロマ・ポリシーでは、学生に対し卒業までに身につけて欲しい能力を示し、併せてカリキュラムツリーで授業科目との関係性を示しているが、学生にとってそれぞれの能力が身についた姿を具体的にイメージできるようなものには仕立てられていない。

振り返りを行う際に自己評価を行うためには、学生が理解できるような説明が必要になるが、履修指導をする教員の共通理解も含めて内容の見直しが必要である。

また、各授業科目のシラバスにおいて到達目標とともに、授業を通して身につけたい能力について示すことになっているが、非常勤を含めた全教員に対してカリキュラムツリー上の科目配置が浸透していないため、今後はシラバスの作成依頼と併せて丁寧に周知する必要がある。

短期大学部 保育学科

令和5年度も全学的な取り組みとして、年度末に振り返りシートを用いて保育学科のディプロマ・ポリシーに基づいた学修の振り返りを実施した。今後においては、教職科目を含めた科目ごとの振り返りを実施するかどうかなど、改善、課題の余地が残っているため、さらに検討を重ねていきたい。

なお、教職課程「履修カルテ」に関しては、学科で様式を作成して管理している。本学の「学修支援管理システム」に組み込まれていないため、将来的には、教職課程についても学修の成果を全ての教職員（教職授業担当する非常勤教員を含む）が確認できるように取り組む必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 福島学院大学 建学の精神 <http://www.fukushima-college.ac.jp/spirit/>
- ・ 福島学院大学 教育理念 <http://www.fukushima-college.ac.jp/philosophy/>
- ・ 情報公開「教育研究活動等の状況についての情報」
http://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_activity/
- ・ こども学科 学びの概要 http://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/

基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学では、福祉学部こども学科と、短期大学部保育学科の両学科にて、教員養成及び保育士養成を行っている。両学科ともに教職課程認定基準（平成13年7月19日教員養成部会決定）で定められた教員数を充足しているが、両学科の教員が相互に兼任することで担当科目の教員配置の調整ができており、最低限の非常勤教員を加えた体制での教育が実現できている。

また、両学科間の連携は、事務局教務課、こども・保育学科実習指導室がその機能を果たすとともに、「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」、「教育・保育実習指導委員会」、及び「こども・保育学科合同FD研修会」等で情報の共有や調整が行われている。また、こども学科授業改善委員会、保育学科授業改善委員会では、学生からの意見も吸い上げ、必要に応じて対応する体制を取っている。

なお、両学科の運営にあたっては、「教育実習施設との意見交換会」（隔年開催）、「学科評議員会」など学外の学識経験者や現職の教育・保育関係者からの意見も取り入れながら柔軟に対応している。

〔長所・特色〕

福祉学部 こども学科

こども学科では幼稚園教諭一種免許状と、保育士資格の同時取得を意図した教育課程が編成されている。学科の専任教員は、教職課程認定基準、及び指定保育士養成施設の教員資格を満たしている必要があり、担当科目に関する研究や実務経験などの業績が求められている。

教職課程において、「教育に関する基礎的理解等」の科目については主として研究者教員、「領域に関する専門的事項」「保育内容の指導法」「幼稚園教育実習」と「保育教職実践演習」については実務経験を有する教員、音楽、造形などの分野については高度な技術力や専門性を持った教員を配置するなど、適正な人員配置に努めている。

短期大学部 保育学科

保育学科は、保育・幼児教育分野において、卒業認定・学位授与に求められる能力や素養を身

につけるために、体系的に教育課程編成を構築している。さらに、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格が取得できるように教育課程を編成している。

保育学科所属の専門教育科目を担当する専任教員は、教職課程認定基準、及び指定保育士養成施設の教員要件を満たす必要があり、特に教職課程では、担当科目に関する教育研究業績（過去10年以内）や学校現場等（幼稚園等）での教育実績等が求められている。保育学科の教職専任教員は、担当科目の教育研究業績を有しており、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」に5人（内教授2人）、「保育内容の指導法」、「教育の基礎的理解に関する科目」等に4人（内教授1人）を配置し、適正な人員配置を確保している。授業以外についても実務家教員が中心となり、学科内専任教員も協力しながら教職に関する学生指導（教育実習、実習施設との連携等）にあたっている。

また、学科内では教員の教育力、資質向上のためのミニFD研修会を定期的に行い、授業実施において工夫している点や効果的な教授法などについて、情報を交換している。

【取り組み上の課題】

福祉学部 こども学科

入学定員40人という少人数による教育体制であるが故に、教職専任教員数については設置基準を充分満たしているとは言え、余裕ある配置が難しい。

今後、新たに開設された授業科目の担当者を配置するにあたっては、非常勤講師の活用を含め、教員の手配が課題である。

短期大学部 保育学科

今後においても福祉学部こども学科、事務局教務課の連携を深め、「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」及び「教育・保育実習指導委員会」、「こども・保育学科合同FD研修会」等で情報の共有や調整を引き続き実施していく。

なお、教職課程教育を行う上でのICT教育環境の適切な利用は不可欠であるため、ICTを活用した効果的な授業展開・方法等について、授業担当者を対象とした研修会を開催するなど、一層の充実と取り組みが必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 情報公開「教育研究活動等の状況についての情報」

http://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_activity/

- ・ こども学科 学びの概要 http://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/
- ・ 保育学科 学びの概要 http://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/

(参照日 2024 年 4 月 26 日)

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

[現状説明]

4年制の福祉学部こども学科は、福島県内の私立4年制大学として唯一、男女共学で幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得ができる大学である。短期大学部保育学科は男女共学の2年制の課程で、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得ができる。

いずれの学科も本学が所在する福島県をはじめとし、隣県の宮城県、山形県等、主に南東北地域の幼稚園で働く幼稚園教諭や認定こども園で働く保育教諭、児童福祉施設(保育所等)で働く保育士の育成に力を入れており、「アドミッション・ポリシー」に基づいた学生募集や入学選抜を行っている。福祉学部、短期大学部とも全ての選抜において面接試験(総合型選抜は2回の面談)、小論文試験を実施、大学進学にあたり、大学での学びや卒業後の進路についてしっかりと目標を持って入学することや学力(国語力)を確認している。

進学希望の高校生への対応としては、本学ウェブサイトにて教育課程全体の説明と教職課程に関する情報を掲載し、また、オープンキャンパスや主要都市で開催される進学説明会等において配布している「大学案内」により、本学の教職課程の周知に努めている。

高校訪問は、学科より学生募集委員会に選出された教員を主に春と秋に実施していたが、近年はコロナ禍により実施を控えていた。ただし、模擬授業(出前授業)は高校側からの依頼により幼児教育系、発達心理学系、表現(音楽・造形)分野等の担当教員が実施している。

オープンキャンパスでは本学の学びの特色や入試全般の説明と併せて保育士養成課程を含めた資格・免許状の教育課程全体の説明を行っている。令和5(2023)年度は7回開催され、学科説明は無論のこと、模擬授業(体験授業)、学科個別相談、在学生による懇談・相談会、キャンパスツアー等を実施し、大学全体の学びの特色や教育環境をわかりやすく体感できるように工夫している。このような試みにより本学の特色をより実感的に理解してもらうことで、教職課程を目指す学生の確保に努めている。

〔長所・特色〕

福祉学部こども学科、短期大学部保育学科とも幼稚園教諭と保育士の養成が主な使命である。両学科では、幼稚園教諭、保育士の養成を前提とした「アドミッション・ポリシー」を策定し、その方針を踏まえて学生募集、入学選抜等を実施している。入学者受け入れに関わる業務は、両学科と入学広報課が協力して行っている。教職課程の規模については、福祉学部こども学科、短期大学部保育学科とも、学生数と収容定員の比は、1.1 倍を超えていない。

また、両学科とも「カリキュラム・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」を策定し、教職を目指す学生に対して個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、適切な履修指導を各学期末に実施される成績発表、履修登録の時間帯を利用して実施している。

〔取り組み上の課題〕

入学者の確保は、毎年度の課題である。18 歳人口の減少、幼児教育・保育系大学・短期大学への進学希望者減の状況ではあるが、福祉学部こども学科は、設置以降入学者は少しずつ増加し、令和 5 年度には収容定員の 160 人（収容定員比 1.05 倍）を越えた。しかしながら令和 6 年度は収容定員比 0.98 倍と僅かに下回り、安定的な定員確保が課題である。

短期大学部保育学科は、入学定員である 150 人の入学生確保が非常に難しい状況が続いていた。要因としては、幼児教育・保育系短期大学への進学希望者減少が大きい。加えて、勤労学生を計画履修生として受け入れる制度で毎年度 20 人の募集を行っていたが、令和 2（2020）年度から提携企業の都合により現在までその募集を休止していることも要因の一つである。入学生確保の改善策として、令和 5（2023）年 4 月、4 年制大学にマネジメント学部地域マネジメント学科（入学定員 90 人）を開設。90 人の入学定員は、短期大学部情報ビジネス学科（入学定員 60 人）廃止による募集停止と、短期大学部保育学科の定員を 150 人から 100 人に減員することにより設定した。

なお、教育・保育を担う人材が求められているにもかかわらず、なり手となる養成校の学生減少は社会的な問題ともつながっており、今後は幼児教育や保育のやりがいや若い世代に啓発していくこと、処遇改善を社会に向けて発信することなども、大学がその役割を担っていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ こども学科 学びの概要 http://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/
- ・ 保育学科 学びの概要 http://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/

- ・ 入学選抜 福祉学部 http://www.fukushima-college.ac.jp/admission_welfare_index/
- ・ 入学選抜 保育学科 http://www.fukushima-college.ac.jp/admission_jc_index/
- ・ オープンキャンパス <http://www.fukushima-college.ac.jp/opencampus/>

(参照日 2024 年 4 月 26 日)

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学では、各学科と連携して学生の就職活動等を支援する部署として学生支援・キャリア支援課を設置し、学生の卒業後のキャリア形成に向けた活動を支援している。

学生支援・キャリア支援課では、求人情報の紹介や就職ガイドブックの作成、進路希望調査や卒業生・就職先アンケート調査等を実施している。

また、各学科のクラスセミナーや課外時間を利用して、学科・学年に応じたキャリアに関するセミナーを開催している。学科・学年に応じたキャリアデザイン、キャリア形成、自己分析セミナー、業界研究セミナー、学内合同企業説明会、公務員試験対策ガイダンス等を開催して、学生が計画的に進路を決定し、業界動向・就職活動に関する知識を修得できるよう支援している。

加えて、学生が学業と両立し効率よく就職試験対策ができるよう、適性検査・就職模擬試験の実施、公務員試験対策講座・就活スタートアップ講座等、就職対策のノウハウを伝えるための講座の開催だけでなく、応募書類添削やマナー・面接指導等、個別の支援も行っている。

〔長所・特色〕

本学では、学生支援・キャリア支援課と各学科所属のキャリア支援担当教員とが連携の強化を図るための組織として、就職対策委員会を定期的で開催している。求人情報、就活イベント情報、学内就活イベント、学科ごとに行われる就活行事の企画から実施に関する確認、就職内定や進学状況、未内定者への指導状況など、学生個々のキャリア全般に関する情報の共有や卒業生・就職先へのアンケート調査を実施し、その回答や意見の共有と以後の教育やキャリア支援の改善を図っている。

教職に特化したキャリア支援としては、両学科と学生支援・キャリア支援課が協力のうえ、福島

県私立幼稚園・認定こども園連合会主催「教諭就職セミナー」や福島県社会福祉協議会主催「福祉のお仕事説明会」、「保育のお仕事説明会」を開催し、仕事の紹介・説明のみならず、大学の卒業生等で幼稚園や認定こども園で活躍している教諭を招聘し、仕事の楽しさや就職活動の仕方等、大学時代の学びへのアドバイス等も講演いただくことで、学生の教職への就業意欲の向上を図っている。

また、両学科では、教育実習開始前に事前指導の一環として、福島市内の幼稚園園長、もしくは実習担当者を招聘して「特別講義」を開催している。これは、実習への意欲向上を図ること、教育実習が無事に終了できることを目的に実施されるものである。さらに実習終了後には「実習報告会」も開催し、各実習施設の園長等に出席してもらい実習の振り返り、助言・指導をいただいている。両学科とも幼稚園教諭免許状取得率100%を目指して実習事前・事後指導にかかる授業を工夫して実施し、キャリア支援にもつなげている。なお、隔年で福島県北地区の教育実習先との意見交換会を開催し、実習のみならず両学科の教育・運営に関する意見・助言等もいただきながら実習先との連携を図ることで、キャリア支援の充実に寄与している。

令和 5(2023)年度卒業生の就職率(令和6(2024)年 5 月 1 日現在)は、こども学科 97.2%、保育学科 97.7%であった。うち、こども学科は幼稚園教諭での就職が 2.9%、保育教諭での就職が 34.3%、保育士での就職が 60.0%(公務員を含む)、一般職が 2.9%であった。保育学科は幼稚園教諭での就職が 3.5%、保育教諭での就職が 24.7%、保育士での就職が 64.7%(公務員を含む)、一般職が 7.1%であった。両学科とも幼稚園教諭、保育教諭をはじめとする保育者としての専門職への就職がほとんどを占めている。

【取り組みの課題】

学生のキャリア支援は、学生支援・キャリア支援課が担っているが、各学部学科教員の協力が不可欠である。今後の課題としては、少人数のスタッフで効率よく業務を遂行できる方策の確立と各学科のキャリア支援担当教員との連携体制の強化があげられる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・キャリア支援 http://www.fukushima-college.ac.jp/career_support/
- ・情報公開「教育研究活動等の状況についての情報」
http://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_activity/

(参照日 2024 年 4 月 26 日)

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

福祉学部 こども学科

教育課程については、こども学科が設置された平成27(2015)年4月以降、法改正による平成31(2019)年度の再課程認定時の改正と、事後調査対応による令和4(2022)年度の改正を行っている。これに合わせて、保育士養成課程だけでなく、学科の教育課程全体の見直しも実施した。

教職の必修科目の変更については、シラバス及び教員資格の審査基準を順守し、適切に届出を行ったほか、本学の目指す保育者養成を実現するため、あるいは地域社会からの要請に応えるため、大学独自に教育科目の改廃を行っている。

最新令和4(2022)年度の改正では「保育施設におけるマネジメント力育成のための科目」、「学生の研究能力向上のための科目」、「保育者としての専門性向上を意図した科目」、「保育者としての人間力向上を意図した教養教育科目」をそれぞれ開設し、段階的に教員を配置し開講を始めている。

各教科目の内容については、事務担当者、学科主任、学科長によるシラバスのチェックが行われ、コアカリキュラムやモデルカリキュラムなど、法令に即しているものか確認作業を行っている。

短期大学部 保育学科

保育学科の教育課程については、平成31(2019)年度の再課程認定時に、専門教育科目の大幅な改正を実施している。さらに令和3年度には教養教育科目の初年次教育、情報教育分野の科目整理、ここ数年休講している科目の廃止、開講期や履修年次等の見直しを行い、改正手続きを実施し、令和4年度入学生から新たな教養教育科目で開始している。

「本学独自の教科目」については6科目と少ない科目数ではあるが、「保育内容研究」、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」等の演習系の授業では、実践的な教育が展開できるよう努めている。

〔長所・特色〕

福祉学部 こども学科

教育課程等について審議するための学内組織としては、「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」、「こども学科科内会議」、「教学委員会」、「教授会」がある。この他に「実習施設との意見交換会」、「学科評議員会」など学外の学識経験者や現職の保育関係者からの意見も取り入れながら柔軟に実施している。

また、「こども学科授業改善委員会」では、学生からの意見も吸い上げ、必要に応じて対応する体制を取っている。

短期大学部 保育学科

保育学科の教育課程は、学科のディプロマ・ポリシーを達成するため、また、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格が取得できるように体系的に編成している。

「保育学科履修細則」により、幼稚園教諭二種免許状取得に必要な履修科目を示し、「保育学科の教育」(学生便覧)を用いて、学科全体の教育課程、幼稚園教諭免許状取得にかかる教育課程(指定科目)、カリキュラムツリー等を用いて具体的に学生へ説明し、履修指導を実施している。

成績評価基準については、学則第29条の2(成績評価基準等の明示)、第41条(成績評価及び単位認定)、及び福島学院大学短期大学部履修規程第10条(成績評価)に定めており、厳正に適用している。令和4年度からは、新たなGPAが導入され、成績評価の一層の厳格・厳正化が図られるよう学科会議において共通理解を行った。学生に対しても年度当初のオリエンテーションや学期末に実施される履修登録、成績発表の際に周知している。

シラバスについては、特に免許状取得にかかる専門教育科目の必修科目は、文部科学省が示す教授内容を十分充たす内容となっているかを学科長、学科主任がチェックし、科目ごとに、各回の学修内容、授業の到達目標、評価方法・基準等を明確に示し、担当教員から初回授業時に学生にも周知している。なお、教員授業実施規程においても第20条(学業成績評価)により、成績評価の厳正・公正について示され、学生からの開示請求があった場合にも対応できるようにしている。

教職課程「履修カルテ」については、文部科学省が示す作成例を参照し、教職関連科目の履修状況と学生の自己評価シートを作成している。この「履修カルテ」により、学生の学修状況に応じた教職指導に活用するため、1年生の前期末から、成績発表が行われる学期末ごとに作成し、担当教員が確認後、2年次「保育・教職実践演習(幼稚園)」の指導時に補完的な個別指導に活用している。

「教育実習」の指導体制は、両学科に実習指導室長を置き、学科の実習にかかる業務を統括している。そして、保育実習も含めた学生の実習を支援する部署として、こども・保育学科実習指

導室に専任職員を配置し、両学科の各種実習にかかる業務を担っている。保育学科の「教育実習」は、授業担当者を中心に事前・事後指導を実施し、1年次から「教育実習(基本実習)の手引き」を学生に配付し、実習指導にあたるようにしている。福祉学部こども学科と教育実習、保育実習の時期が重なることから、「教育・保育実習指導委員会」において相互に連携しながら、学生が実習を終了できるようサポートを行っている。

【取り組みの課題】

福祉学部 こども学科

教育課程の編成について、計画上の変更は徐々に理想的な編成に近づく一方で、科目を担当する人材の確保が課題となっている。本学が立地する福島県においては、隣接する高等教育機関が少ないため、特定分野の専門性を有した非常勤講師の確保も難しい。近年はどこの大学も教員の負担が多くなっており、学外への出講も難しい状況である。

今後はこの状況を踏まえて、福島県外都市部の高等教育機関との協力関係を広げ、人材の交流も検討したい。

短期大学部 保育学科

令和5年10月に短期大学機関別認証評価を受審した際、参考意見として「保育学科の1年間に履修登録できる単位数が55単位と高く設定されていたことから、単位制度の実質を保つために上限を見直すことが望まれる」との意見をいただいた。それを受けて昨年度末、1年間に履修登録できる単位数を50単位に変更し、令和6年度入学生から適用している。

さらに、現行教育課程の開講年次の見直し、選択科目の開設科目数と単位数の整理等を行い、1年間に履修登録できる単位数が50単位を超えないように令和6年度も教育課程の改正を進める。

また、「教育実習」、「保育内容研究」の授業担当者の負担が年々増加しており、複数の教員で指導ができる体制を引き続き実施していきたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ こども学科 学びの概要 http://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/
- ・ 保育学科 学びの概要 http://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/
- ・ 情報公開「教育研究活動等の状況についての情報」
http://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_activity/

(参照日 2024 年 4 月 26 日)

基準項目3-2 実践的指導力養成と地域との連携

〔現状説明〕

福祉学部 こども学科

教育課程の中で、特に実践力の養成を意図した科目群である「保育内容の指導法」、「幼稚園教育実習（事前事後指導1単位を含む）」、「保育・幼稚園教職実践演習」においては、実務経験を有する教員を配置し、指導計画案の作成や模擬保育の実施を含め実践的な内容で授業を実施している。

また、本学附属認定こども園における5日間の実習の他、園児への読み聞かせや遊びなどの交流機会を設け、学外実習に出る前にも保育現場での実践経験を積ませる取り組みを行っている。

令和4年度からは近隣の小学校と連携し、本学学生による低学年児童への読み聞かせを開始、令和5年度からはこの活動を実習指導の授業の一環として実施している。

短期大学部 保育学科

保育学科の教育で、実践的指導力を育成する機会として、本学附属認定こども園と連携した授業、読み聞かせプロジェクト等に取り組んでいる。さらに、全学生を対象に、教育・保育実践の一環として、本学附属認定こども園やその他の教育・保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園、施設等）における地域での教育・保育に関するイベント・研修会等でのボランティア活動を通して、幼児教育の実際を体感しながら教育・保育実践について理解する機会となっている。ここ数年間はコロナ禍で、その活動が制限されたが、令和5年度からは、キャンパス内の本学附属認定こども園や学外実習先での行事運営のボランティアとして参加するなど、可能な範囲で実施した。

教育実習先との連携については、実習指導室長、「教育実習」授業担当者が中心となってその対応にあたっている。令和5年11月には、福祉学部こども学科と合同で、教育実習先との意見交換会を開催し、「教育実習」の充実と実習先との連携の強化を図るよう努めた。

また、本学では、各学科に評議員会が設置されており、保育学科では教育・保育施設に従事している卒業生や学識経験者を委員として委嘱している。年1回「学科評議員会」を開催し、教育実習等を含めた学科教育運営についての意見・助言をいただき、学科運営の改善等に資している。

[長所・特色]

福祉学部 こども学科

実務経験を有する教員の中には、教育委員会の指導主事や校長経験者も複数おり、こうした人材を活用し福島県教育庁、福島市教育委員会等との連携や交流が行われている。本学教員が学識経験者として、県や市町村のこども子育て支援関連の委員として選出され、活動を行っている他、近隣小学校との交流活動も始まっている。

本学附属認定こども園には「こども図書館」が併設され、地域にも開放されている。運営には学生がボランティアとして参加し、子どもや保護者との交流機会にもなっている。

短期大学部 保育学科

令和5年度「読み聞かせプロジェクト」は、保育学科 2 年生全員を対象とし、保育者としての実践力を図ることを目的に、2年次後期科目「保育・教職実践演習（幼稚園）」の授業の一環として、時間割外（空き時間）に「読み聞かせ」の実践を行った。

また、本学附属認定こども園と連携した体験授業を展開し、「保育内容指導法 環境」、「幼児と環境」、「特別研究Ⅰ（子どもと園芸）」において、サツマイモ、ジャガイモ、カボチャの栽培と収穫、ハロウィーン、りんご狩り等の園行事を題材に、認定こども園の子どもたちと一緒に、行事の実践を経験する授業を実施することにより、学生に実践的指導力を育成する機会を提供している。

さらに「会話演習」の授業においても、本学附属認定こども園「こども図書館」での園児への絵本の読み聞かせの実践を通して、幼児との関りの体験を重ね学外実習へとつなげている。

[取り組みの課題]

福祉学部 こども学科

コロナ禍以降、中止されているが市やNPO団体が主催する子どもを対象としたイベントについては、再開し次第ボランティア学生や引率教員の派遣を行いたい。

短期大学部 保育学科

今後においても「読み聞かせプロジェクト」は 2 年生全員を対象とし、保育者としての実践力を図ることを目的に、2年次後期科目「保育・教職実践演習（幼稚園）」授業の一環として、時間割外に「読み聞かせ」の実践を行っていく。

また、本年度も「子ども理解」、「コミュニケーション能力の向上」等を図ることを目的に本学認定こども園でのサポーターや、福島県内で実施される教育・保育に関するイベント、研修会等の学生ボランティア動員や参加の要請があった場合、可能な範囲で対応していく。

特に1年生は学外実習事前指導の一環として、教育・保育施設などでの実習前のボランティア活動を推進していく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ こども学科 学びの概要 http://www.fukushima-college.ac.jp/welfare_child_learning/
- ・ 保育学科 学びの概要 http://www.fukushima-college.ac.jp/jc_hoiku_learning/
- ・ 情報公開「教育研究活動等の状況についての情報」
http://www.fukushima-college.ac.jp/disclosures_activity/

(参照日 2023 年 4 月 28 日)

Ⅲ. 総合評価

福祉学部 こども学科

福祉学部こども学科は、定員 40 人という少人数による教育体制であり、教育理念及び学修目標等に関しては教員・学生ともに共通理解が図られ、基準領域Ⅰ「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」は十分に満たされていると自己評価している。少人数教育の利点はあるものの、小規模学科として専任教員の余裕ある配置は容易とは言いがたく、ゼミナールなど、より少人数での実施が有効であると思われる授業の実施に苦慮する場面もある。今後、新たに開設された授業科目の担当者を配置するにあたって、非常勤講師の活用を含め、教員の手配が課題である。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」については、福島県内の私立4年制大学として唯一、男女共学で幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得ができる強みを基に、教職課程を目指す学生の確保に鋭意努め、直近の就職率に関しても 97.2%、うち、幼稚園教諭等専門職への就職が 97.1%と高い比率を誇っており、この点も十分に満たされていると自己評価している。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」については、こども学科が設置された平成27年4月以降、法改正による平成31年度の再課程認定時の改正と、事後調査対応による令和4年度の改正を行い、これに合わせて、保育士養成課程を含めた学科の教育課程全体の見直しも不断に実施して来ている。勿論、各教科目の内容については、学科主任、学科長によるシラバスのチェックが行われ、コアカリキュラムやモデルカリキュラムなど法令に即しているものか確認作業を行っている。また教育課程の編成については学内組織として、「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」、「こども学科科内会議」、「教学委員会」、「教授会」等に諮る他、「実習施設との意見交換会」、「学科評議員会」など学外の学識経験者や現職の保育関係者からの意見も取り入れながら柔軟に実施している。これらの観点からも要件は十分に満たされていると自己評価している。

短期大学部 保育学科

保育学科の使命は幼稚園教諭、及び保育士の養成である。教職課程の教育課程は、教育目標を達成するため、教養教育科目の他に、専門教育科目を「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、そして、「本学独自の科目」で構成している。学科の所属教員は、ほぼ全教員が教職課程に関わる授業科目を担当し、また、教職課程を担当する事務局教務課と連携しながら、教職課程の運営は教職員の共通理解の下、協働的に実施されている。

保育学科に入学する学生は将来の計画も明確であり、ほとんどの学生が教育・保育の専門職を希望していることにより、アドミッション・ポリシーは十分に周知されていると考えられる。入学後は、学生支援・キャリア支援課が中心になって、学科のキャリア支援担当教員と協力体制を取りながら1年次の前期から学生支援・指導を行っている。保育学科では、各学年のクラスごとにクラスアドバイザーを置き、クラスアドバイザーが定期的に担当する学生と個別面談を行い、学生の進路（就職・進学等）を確認するとともに、週1回のオフィスアワーを設け、適宜、様々な相談に応じ、学生の適性や資質を踏まえた上で、指導・助言を実施している。この面談結果については、報告書としてまとめられ、学科内で共有することができる体制としている。

保育学科の教育目標は「多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材の育成」である。この目標を達成するために、教育実習等の「教育実践に関する科目」を核として、教養教育科目を含めた各授業と実習を関連付けながら実践力のある保育者の育成を図っている。また、教職科目の学びを深め広げる学科独自科目を卒業必修科目として「保育内容研究」をカリキュラムに位置付け、体系的で主体的な学びとしている。そして研究・実践した授業の成果を発表する機会も設定している。保育学科の教職課程は、学科の三つのポリシーに基づいて運営され、「保育学科内会議」、「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」により点検・評価されている。

以上、福祉学部こども学科、短期大学部保育学科では専任教員全員の共通理解と実践のもと、教職課程の質の保証や改善に取り組み一定の成果を上げてきたといえる。

今後、幼児教育の世界において一層の進歩と高度化が進むICT環境に対応するための教育環境と教授する人材の確保が課題となる。

IV.「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学における教職課程を有する学科は、福祉学部こども学科、短期大学部保育学科の2学科で、両学科ともに幼稚園教諭免許状、保育士資格取得を目的とした教育課程の構成となっている。そのため、自己点検評価は学科主導で行うこととなった。

自己点検評価の項目内容は、「教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議」により、改正法に沿って作成された「教育課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」を参考に決定している。

報告書の作成については学部長、学科長がとりまとめ、両学科を跨ぐ組織として、教職課程担当教員からなる「教員養成カリキュラム及び教職指導委員会」に諮り、公表する運びとしている。

今後のプロセスとしては、分析評価し導き出した諸課題について、改善計画を策定し、教職課程のより一層の充実に繋げていくこととする。

V. 現況基礎データ一覧（令和6年5月1日現在）

法人名 学校法人福島学院					
大学・学部・学科名称 福島学院大学 福祉学部 こども学科					
1. 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数					
① 令和5年度卒業者数			36名		
② ①のうち就職者数			35 名 (幼稚園教諭1名・保育教諭12名・保育士21名 ・一般職1名)		
③ ①のうち教員免許状取得者の実数			34名		
④ ②のうち教職に就いた者の数			13名(保育教諭1名・保育教諭12名)		
⑤ ④のうち正規採用者数			12名		
⑥ ④のうち、臨時的任用者数			1名		
2. 教員組織					
職名	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	9	4	2	0	0
相談員・支援員など専門職員数 2名					

法人名 学校法人福島学院					
大学・学部・学科名称 福島学院大学短期大学部 保育学科					
1. 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数					
① 令和5年度卒業者数			90 名		
② ①のうち就職者数			85 名 (幼稚園教諭3名・保育教諭21名・保育士55名 ・一般職6名)		
③ ①のうち教員免許状取得者の実数			80 名		
④ ②のうち教職に就いた者の数			24 名 (幼稚園教諭3名・保育教諭21名)		
⑤ ④のうち正規採用者数			23 名		
⑥ ④のうち、臨時的任用者数			1 名		
2. 教員組織					
職名	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	5	2	6	0	0
相談員・支援員など専門職員数 2名					

以上